

関音研長野大会だより

—第3号— R5.9.1

発見！音楽のオモシロさ！

～音楽科における個別最適な学びと協働的な学びを通して～

発行：関音研長野大会事務局

長野大会実行委員長より ～長野市立下氷鉤小学校長 島立 仁美～ 頑張っています！われらの仲間

酷暑の中にも、朝夕に秋の気配が感じられるころとなりました。各学校、2学期の学習や活動も軌道に乗り始めたころではないでしょうか。

さて、関音研だより第2号では、石川大会長先生より、授業研究の様子についてお伝えいただきました。第3号では、運営面での進捗状況の概略をお伝えしたいと思います。

事前授業にあたり、各会場校では会場校系の先生方が参観者の動線を確認し、案内表示を整え、本番さながらに準備していただきました。その中で見えてきた新たな課題についても一つ一つ対応を確認しながら進めていただいています。また、ホームページや申し込みフォームについても、数々の修正を経てようやく完成し、運用開始となりました。広報・紀要係では紀要の内容や執筆者の確認、原稿依頼と共に広告掲載の依頼を行っていただいています。ホクト係は当日の参観者や来賓の動き、業者のブース設置などが徐々に決まり、駐車場も含めてホクトとの調整を進めていただいています。配信係ではムービーイノベーション及びホクトとの折衝、各会場校の配信リハーサルなどについて打ち合わせを進めていただいています。レセプションについては、出演者について検討し、各県からの発表について確認依頼していただいています。研修部では、午後の部について江崎さんとの打ち合わせを経て会の流れを検討し、役割分担と共におおよその全体像を決めだし、準備していただいています。学会事務局は、他県との調整や、関音研としての流れについて確認、検討していただいています。総務部はそのすべてに関わり、進捗を見ながら各係と連絡調整を進めています。10月5日（木）には係として携わる全員が集まり、当日の運営に向けて各係の細案を確認し合う予定です。

何度も話題に上っている通り、関音研が長野県で実施されるのは初めてのことです。加えてここ数年オンライン実施が中心であり、参集での実施は2019年度の横須賀大会以来となります。しかも、今大会は参集できない参観者に配慮し、オンライン配信も併用する初の大会です。したがって、すべてが手探りです。参考になる過去の大会をもとに検討を重ねながら進めているところですので、「遅々として進まず」と感じられる方も多いかもかもしれません。でも、せっかくの機会ですから、「よりよいものにしたい」との思いは皆同じです。“これまで培ってきた信州教育を他県に発信するとともに、信州の子どもたちと先生たちが「音楽のオモシロさ」を再発見する”というゴールを目指して、共に走り抜きましょう。



レセプション参加のお誘い

今大会では、4年ぶりに実施となります。他県の先生方と交流し、学び合い、レセプションとはどんなものか味わえる、またとないチャンスです。多忙であることは間違いないのですが、思い切ってぜひ参加してみませんか？

